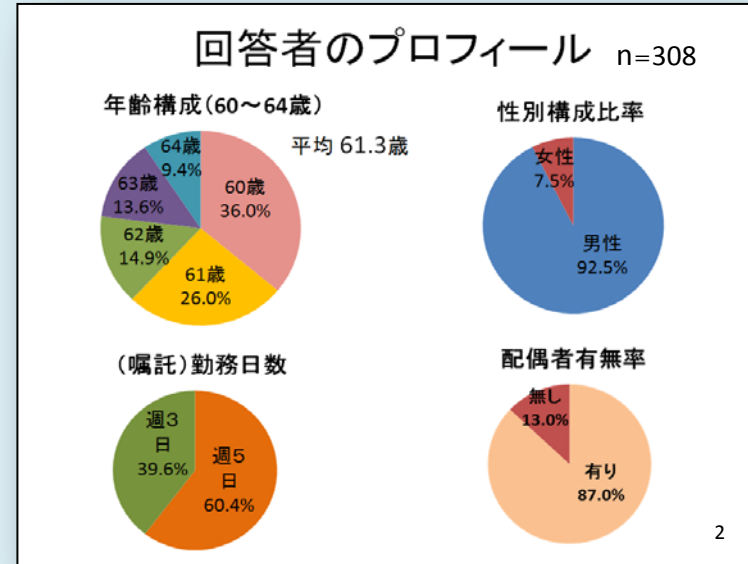


働く60代前半者に実施したセカンドライフに関するアンケート調査結果

一旦定年を迎えた後、継続的に働いている60歳前半の人たちを対象に、65歳以降のセカンドライフに関するWEBアンケートを実施しました。

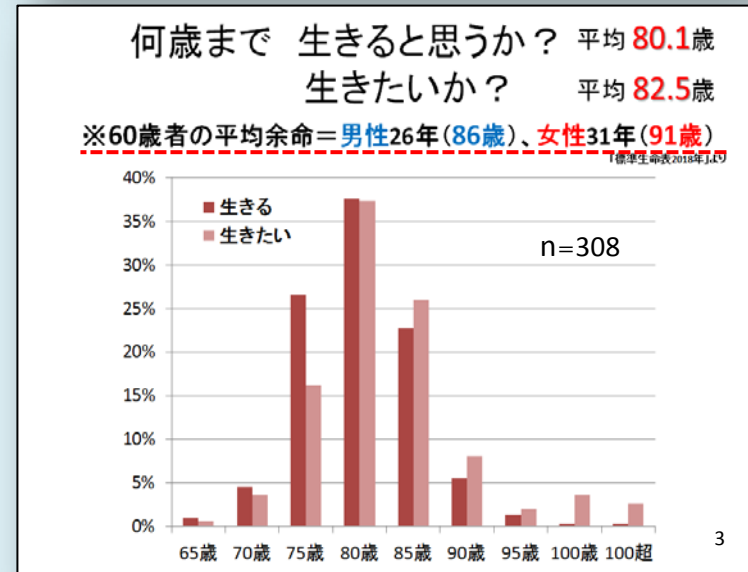
何歳まで生きると思うか？の問いに対し、実際の平均余命に比べかなり低い年齢の回答が多く、最近の寿命革命が”自分ごと”として認識されていないことなどが判りました。



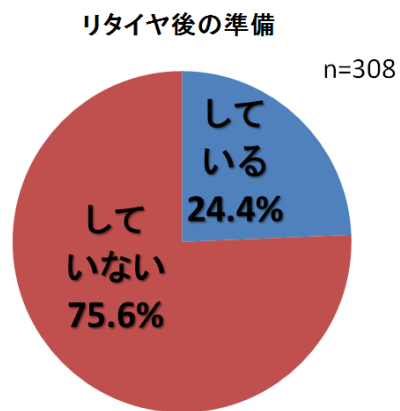
調査概要

対象	働く60代前半者 (60歳で一旦定年になった人)
調査時期	2018年 3月
方法	Webによるアンケート (協力企業社員にお願いメールを送付)
形式	必須回答16問、自由記述3問
項目	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の寿命について ・リタイヤ後の準備について ・セカンドライフでの活動意向 ・将来の心配事 ・地域活動への意向 ・生涯学習への意向 ・リタイヤ後のイメージ(自由記述)
回答数	308人/562人 (回答率54.8%)

1



リタイヤ(現在の雇用契約終了)後の準備について

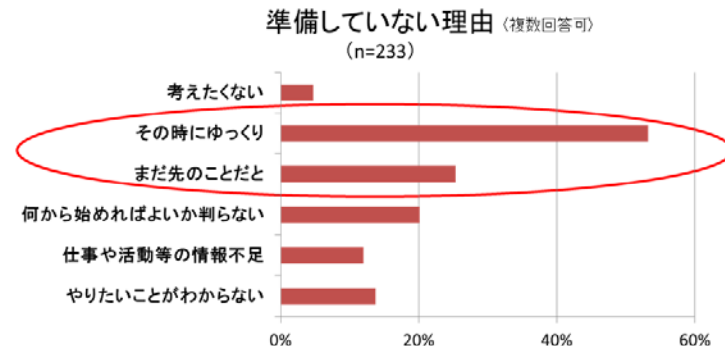


4

リタイヤ後の準備について

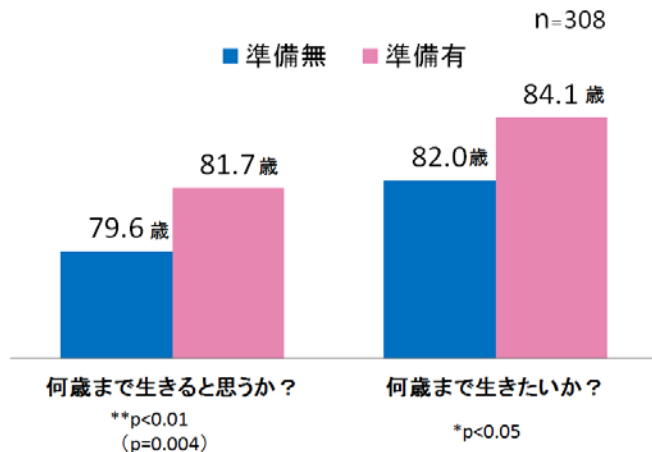
準備していない理由

…「まだ先」、「その時に考える」が7割(重複考慮後)



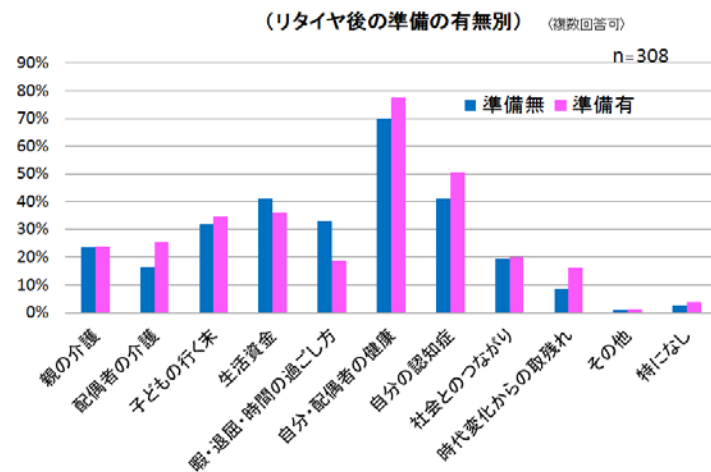
6

リタイヤ後の準備の有・無別 生きる・生きたい年齢



5

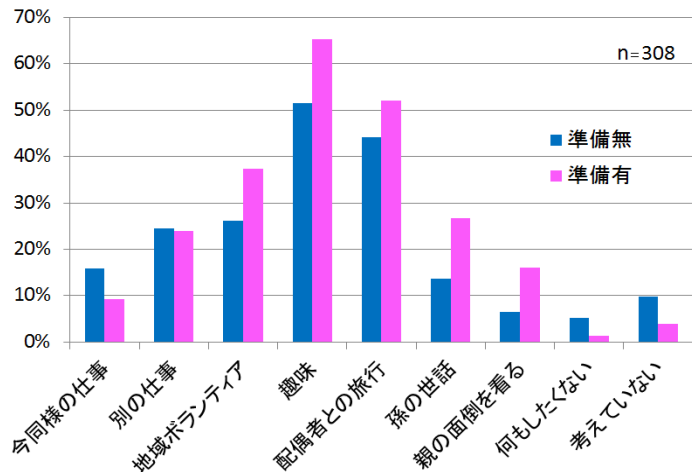
リタイヤ後 将来の心配ごと



7

リタイア後にしたいこと

〈複数回答可〉



8

地域内外での活動意向について

今後の住んでいる地域での活動



今後の住んでいる地域外での活動



地域でのネットワークの有無



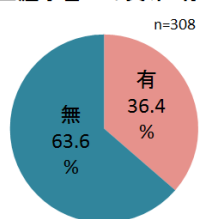
地域外でのネットワークの有無



10

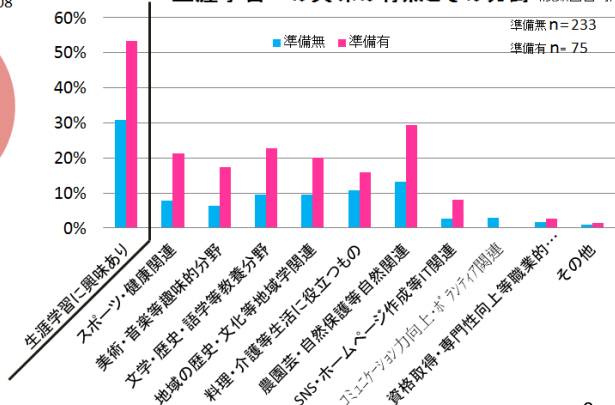
生涯学習について

生涯学習への興味 有無



リタイア後の準備の有無別

生涯学習への興味の有無とその分野

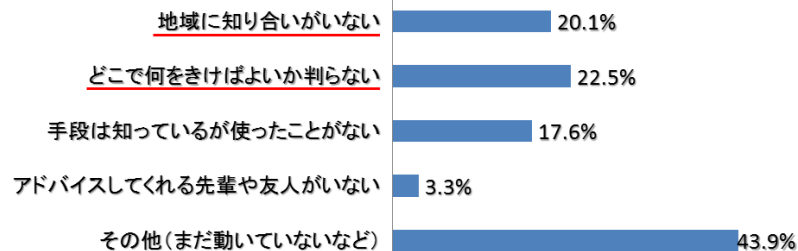


9

住んでいる地域での活動について

地域活動していない理由

〈活動のための資源等〉 n=246 〈複数回答可〉



11

まとめ

- リタイヤ後の準備をしている人は 4人に1人 と少ない。働く60代 前半者の過半の人が リタイヤ後の準備に対し積極的に向き合っておらず、定年後の継続雇用期間が次のステージへの準備ステップとなっていない。
- “平均余命”何年でリタイヤ後の計画を立てるべきだが、自分が何歳まで生きるかを80歳(≒男性平均寿命)で考えている人が多く、65歳以降10年余しか生きないとの認識が リタイヤ後の準備をしていないことと関係していると推察される。
- リタイヤ後の生活不活発化を予防し 健康寿命を延ばすには、次のステージでも役割を担い 生活を充実させることが重要である。そのためには人的ネットワークづくりなどのほか、まず 現在起こっている 寿命(余命)の急激な延び “寿命革命”についてしっかり認識する必要がある。

【参考】

70歳の人々の平均余命 男性17.29年 女性21.62年
80歳の人々の平均余命 男性10.25年 女性13.23年
標準生命表2018より

“寿命革命”

この30年間で男女とも6年寿命が延びている。

